

■開催概要

- 大会名称 : 2024 鈴鹿クラブマンレースRound 4
- 主催 : 京都レーシングハイブリッドクラブ(KRHC)・鈴鹿モータースポーツクラブ(SMSC)
- 協力 : AASC、ARC、ARCN、チーム淀、OCCK
- 後援 : 鈴鹿市、一般社団法人鈴鹿市観光協会(FEクラス)
- 競技 : 公認 国内競技・準国内競技
- 会場 : 鈴鹿サーキット レーシングコース フルコース(5.807km)
- 開催クラス : 総参加台数/179台
 - GR86/BRZ Cup 2024 Round.6.....85台
 - TCR Japan Series 2024.....5台
 - ポルシェスプリントチャレンジジャパン2024.....19台
 - フォーミュラEnjoy.....15台
 - FIT 1.5.....17台
 - スーパーFJ.....38台
- 開催日 : 2024年10月5日(土)、6日(日)
- 天候・路面 : 5日(土)晴れ/ドライ、6日(日)曇り/ドライ



★レースリザルトはインターネットでご覧いただけます。
https://www.suzukacircuit.jp/result_s/2024/clubman/

■次回レース開催概要

- シリーズ名称 : 2024鈴鹿クラブマンレースFinal Round
- 開催日 : 2024年11月30日(土)・12月1日(日)
- 主催 : 中日本自動車短期大学レーシングクラブ(ARCN)
- : 鈴鹿サーキット レーシングコース フルコース(5.807km)
- 開催クラス : スーパーFJ、FIT1.5 Challenge Cup、VITA、v.Granz、フォーミュラEnjoy



2019年から始まり6シーズン目を数えるTCRジャパンシリーズも開催。写真は写レース5のスターティンググリッド

併催レースを含めて総参加台数は179台! スーパーFJクラスはシリーズチャンピオンが決定!!

6月15日(土)、16日(日)に実施された第3戦から約3カ月半。秋へと移り変わった鈴鹿サーキットレーシングコースフルコースにて、鈴鹿クラブマンレース第4戦が開催された。先立って特別走行が行われた14日(金)は雨により、路面はヘビウェット。天候が心配されたものの、15日・16日は両日ともドライコンディションですべてのレースが消化された。

フォーミュラEnjoyでは初めてポールポジションを獲得したという吉田英翔が、見事にポールtoウィン! レース後は興奮冷めやらぬ様子で取材対応に応じた姿が印象的だった。また、今回がシリーズの最終戦となったスーパーFJは、迫隆真がシリーズチャンピオンを獲得。2024年は開幕から3連勝を決めて、スタートダッシュに成功。その勢いそのまま、フォーミュラ初挑戦イヤーでありながら堂々の年間王者に輝いた。そしてスーパーFJは、次回鈴鹿クラブマンレースファイナルラウンドで「日本一決定戦」を3年ぶりに開催することが決まっている。鈴鹿・岡山国際以外に、もてぎ・菅生といった各選手権の指定大会を勝ち抜いた強豪が鈴鹿に集結。真の日本一の座をかけて激突する。見逃せない一戦となりそうだ。

鈴鹿クラブマンレース第4戦は、数々の併催レースも話題を集めた。2019年から発足したツーリングカーのTCRジャパンシリーズ2024ラウンド2。レース4・5がそれぞれ10月5日(土)と6日(日)に行われる2レース制での開催。また、ポルシェスプリントチャレンジ ジャパン (PSCJ) 2024は6日(日)のワンデーで第5戦・第6戦の2レースフォーマットで開催されたほか、クラブマンシリーズとプロフェッショナルシリーズを合わせ85台がエントリーした、GR86/BRZ Cup 2024 Round.6は、推しのドライバー/チームを応援しようと観客が全国各地から鈴鹿に参戦。熱心に声援を送る姿が見られた。

2024年シーズンの鈴鹿クラブマンレースは、11月30日(土)、12月1日(日)のファイナルラウンド*を残すのみ。各クラスでは激しいシリーズチャンピオン争いが繰り広げられそうだ。

*当初予定からスケジュールが変更されています。



レース結果は振るわなかったものの、迫隆真はこの日スーパーFJのシリーズチャンピオンを決めた

■スーパーFJ class

ポールポジションからは岡本大地、2番グリッドは落合蓮音、3番グリッドは小田優でレースはスタート。3勝を挙げ、ポイントリーダーの迫隆眞は5番グリッドだ。岡本大地が好スタートを決め落合、小田が追うと迫が4番手につける。トップの岡本は逃げ始めて単独走行に。2番手に小田、迫は3番手に順位を上げる。終盤に差し掛かっても岡本は単独。小田と迫が2番手を争いバトルを見せる。迫は小田をオーバーテイクして2番手になる。迫、小田、落合の三つ巴のバトルの最中、迫と落合は痛恨の接触によりスピン。レースは岡本が優勝、2位は小田、3位は松井啓人となり、シリーズチャンピオンは迫が手にした。



スーパーFJには、38台ものドライバーがエントリーする激戦区となった。ポールポジションは岡本大地



完勝だった岡本大地。2位の小田優に6秒120もの大差をつけてみせた

■スーパーFJ class ※ジェントルマンクラス



ジェントルマンクラスは優勝が中嶋匠。2位は山根一人、3位には上吹越哲也となった

■フォーミュラ Enjoy class

吉田英翔がポールポジションを獲得。2番グリッドに中島一郎、村瀬賢二、安田知弘、前田公孝の上位陣でスタート。ポールシッターの吉田は痛恨のスタート失敗。2番グリッドスタートの中島がホールショットを奪った。6番手を走る亀蔵はマイスターズ・カップのトップにつけている。一時は4番手あたりまで順位を下げた吉田だったが、着実に2番手にまで順位を回復。すると3周目のS字で中島をオーバーテイクしてトップへ。マイスターズ・カップは6番手の亀蔵がトップ、2番手は総合9番手を走る森下吾郎だ。

その後、4番手の安田がクラッシュを喫し、6周目からセーフティカーが導入される。セーフティカーランが解除されるかに思われたが、直前に再びスピンしたマシンがあり、再度、セーフティカーが入る展開に。これにより順位は確定。優勝は吉田、2位は中島、3位は村瀬。マイスターズ・カップは5番手を走る亀蔵がクラス優勝を果たした。



自身初となるポールポジションからのスタートだった吉田英翔



吉田英翔は嬉しい鈴鹿初優勝。2位は中島一郎、3位は村瀬賢二



■フォーミュラ Enjoy class ※マイスターズ・カップ



マイスターズ・カップを制したのは総合でも5位と健闘した亀蔵。2位は森下吾郎、3位に多屋貞一と続いた

■FIT1.5 Challenge class

ポールポジションに清水悠祐、続いて2番グリッドに住直哉、杉原悠太、KAKEYAN、貴島康博のグリッド順でレースはスタート。清水がホールショットを奪うと、杉原は好スタートで2番手へジャンプアップする。清水、杉原、住のトップ3でオープニングラップを終える。

4番手を争い林大輔、KAKEYAN、林陽介が三つ巴になると、清水、杉原、住のトップ争いも熾烈になる。一時、トップの清水は2番手の住を引き離して単独走行になるが、終盤でその差を住が詰めてくる。だが、清水はトップを譲らずに、そのままチェッカー。住をパスした杉原が2位、3位には西田拓矢となった。



清水悠祐は見事にポールtoウィン。一度もトップを譲らなかった



優勝は清水悠祐。2位の杉原悠太、3位の西田拓矢は共に最終盤で順位を上げた

■ポルシェ スプリントチャレンジ ジャパン 2024 第5戦・第6戦

10月6日(日)、この日最初に開催されたのがこのPSCJの第5戦。KEN YAMAMOTOがポールシッターでレースはスタートするも、ウィナーは濱口弘。2位だったKEN YAMAMOTOを15秒以上も引き離れた。

午後からの第6戦は、公式予選で各ドライバーが2番目に速かったタイムを基にグリッドを決定した。第5戦のウィナー、濱口弘がポールポジションをゲットすると、KEN YAMAMOTOと白熱のトップ争いを展開。レースが残り2周を切る頃、濱口はスプーンカーブでKEN YAMAMOTOをオーバーテイク。そのまま逃げ切った。



第5戦でポールポジションからスタートするKEN YAMAMOTO



第5戦の表彰式。濱口弘、KEN YAMAMOTO、橋村剛の順で表彰台に登った

■GR86/BRZ Cup 2024 Round.6 (クラブマンシリーズ・プロフェッショナルシリーズ)

52台ものエントリーを集めて開催されたのがクラブマンシリーズ。岸本尚将がポールポジションからスタートすると、2番手を走る池島実紅が迫りテールtoノーズへ。レースはその後、岸本、佐藤凌音、大西隆生が上位陣を形成。トップ争いが白熱したが、レースは岸本がポールtoウィンで勝利した。

プロフェッショナルシリーズで圧倒的な強さを見せているのが、この日のポールシッターとなった菅波冬悟だ。菅波は終始、危ない走りでもまさに完勝と呼べるポールtoウィン。シリーズ最終戦を待たずして、ひと足早くシリーズチャンピオンを決めた。



菅波冬悟はポールtoウィンで他のドライバーを圧倒。プロフェッショナルシリーズのシリーズチャンピオンに輝いた



プロフェッショナルシリーズ第6戦で勝利した菅波冬悟。2位は蒲生尚弥、3位は堤優威のトップ3だった

■TCR Japan Series 2024 Round 2 レース4・レース5

5台のマシンがエントリーして行われたTCRジャパンシリーズのラウンド2。レース4は10月5日(土)に行われ、チェ・ジョンウォンがポールトゥウィンを決めた。

6日(日)に開催されたレース5では、レース4の再現とばかりにチェ・ジョンウォンがポールから好発進。しかし、そのチェ・ジョンウォンを追う2番手のヒロボンが、10周目についにトップへ。レースはヒロボンが逃げ切りトップでチェッカーを受けた。



6日に行われたレース5で、ポールポジションを獲得したチェ・ジョンウォン



レース5は、ヒロボンが終盤で逆転して優勝。2位はチェ・ジョンウォン、3位は梅本淳一

Voice of Pick up Driver & Team

この日、キラリと光った
ドライバーに一問一答

この日、キラリと光ったドライバー&チームに一問一答
「Voice of Pick up Driver&Team」。

フォーミュラEnjoyを制し鈴鹿初優勝！

吉田 英翔 選手 (K&G RACING FE2)



フォーミュラEnjoyのウィナー、吉田英翔。初優勝の喜びを爆発させた

Q: 鈴鹿選手権での初優勝を決めました。

「めちゃくちゃ嬉しいです。今までのレースでは、優勝争いもしたことがなかった。それでも今日のレース中は落ち着いて走ることを心掛けました」

Q: 予選から振り返っていただけますか。

「予選から落ち着いて走れば大丈夫と、そこは意識して走りました。ポールポジションも初めてだったから、予想通り決勝ではスタートに失敗しました。でも、それも想定内。気持ちを切り替えられました」

Q: スタートが上手くいわずに順位を落とし、それでもすぐトップに戻しました。

「周りのドライバーは速い人ばかりということもわかっていました。順位を落としましたが、そこからもう一度、逆転できたことも良かったです。12月の最終戦も勝って、連勝を目指します」